

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2016 年第 22 週

(5/30~6/5)

5 月報合併号

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

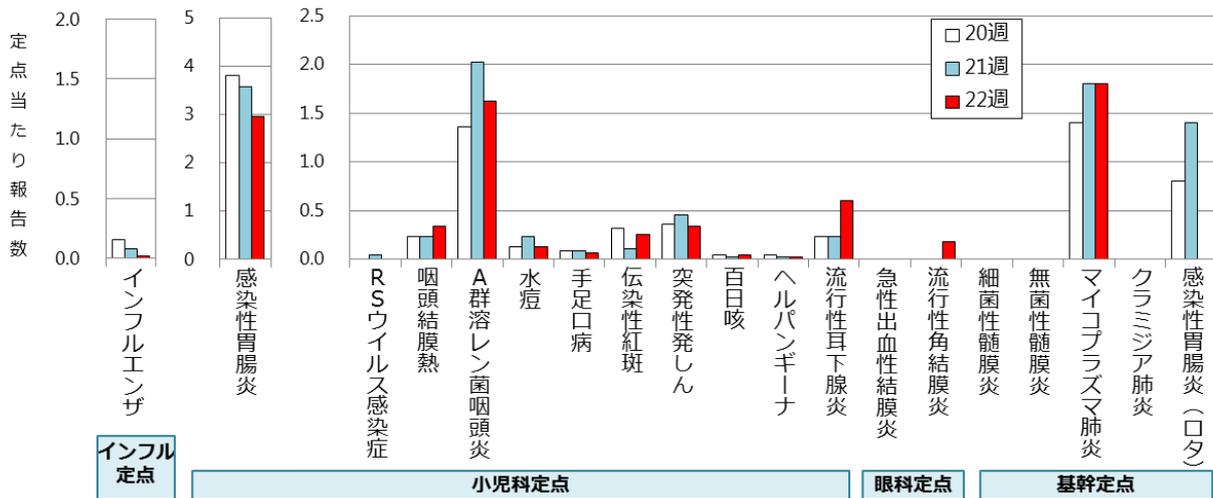
- ◇ 流行性耳下腺炎が増加しています。 →トピックス
- ◇ 咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎など、初夏から夏にかけて流行する感染症に注意しましょう。 →トピックス

■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 14 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：レジオネラ症 1 例
- 5 類感染症：後天性免疫不全症候群 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 2 例、梅毒 2 例

● 2016 年累計

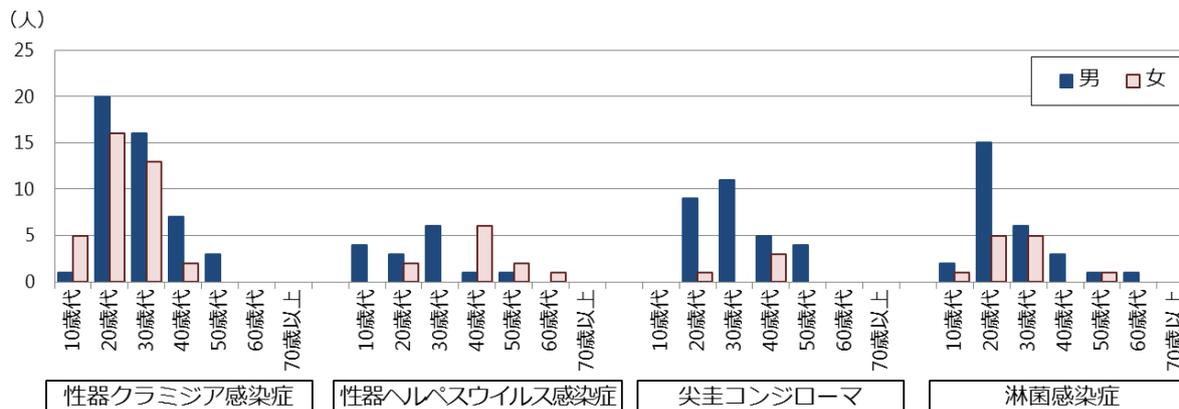
1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	178 例	
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6 例	
4 類感染症	A 型肝炎	1 例	デング熱 2 例
	つつが虫病	1 例	レジオネラ症 7 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症 31 例
	ウイルス性肝炎	1 例	水痘（入院例に限る） 4 例
	カルバペム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 例	梅毒 12 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	播種性クリプトコックス症 3 例
	後天性免疫不全症候群	11 例	風しん 2 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例	

■月報告定点把握対象疾患 <5月>

●性感染症（STD定点：15か所）

疾患名	報告数（定点当たり）					
	5月	男	女	4月	3月	2月
性器クラミジア感染症	16 (1.07)	8	8	15 (1.00)	19 (1.27)	17 (1.13)
性器ヘルペスウイルス感染症	5 (0.33)	4	1	5 (0.33)	3 (0.20)	7 (0.47)
尖圭コンジローマ	6 (0.40)	6	-	8 (0.53)	6 (0.40)	7 (0.47)
淋菌感染症	8 (0.53)	5	3	8 (0.53)	7 (0.47)	10 (0.67)

年齢階級別報告数（2016年1月～5月）



●薬剤耐性菌感染症（基幹定点：5か所）

疾患名	5月報告数 (定点当たり)	年齢群等
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7 (1.40)	50歳代1例、60歳代1例、70歳以上5例
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	なし	-
薬剤耐性緑膿菌感染症	なし	-

■病原体検出情報速報

医療機関から提出された検体の病原体検出状況（5月採取分、6月5日現在結果判明分）

臨床診断名	病原体名（遺伝子検出を含む）	検出数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス B 型	1
咽頭結膜熱	アデノウイルス 未型別	2
感染性胃腸炎	ノロウイルス GII	1
	A 群ロタウイルス	1
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1 型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T6 型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12 型	1
デング熱	デングウイルス 3 型	1
カルバペラム耐性腸内細菌科細菌感染症	<i>Enterobacter cloacae</i> (AmpC β-ラクタマーゼ産生性)	1
麻疹	麻疹ウイルス	1
風疹	風疹ウイルス	1

※県内の病原体検出情報は、岐阜県感染症情報センターの HP にも掲載しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/byougentai.html>

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報（IASR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>

■トピックス

《今、気をつけたい感染症

～咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・伝染性紅斑・流行性耳下腺炎～

◆ 咽頭結膜熱（プール熱）・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

ともに初夏から夏に流行する疾患です。

咽頭結膜熱は、県内では現在のところ大きな流行はみられませんが、第22週に患者報告数が増加していますので、今後の動向に注意が必要です。

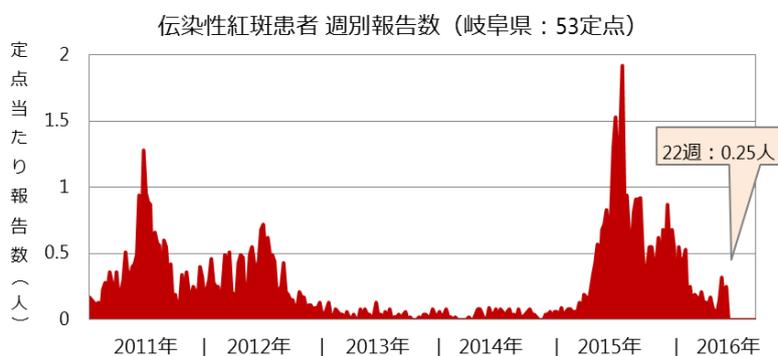
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、6月に入り患者報告数が増加しています。小児の感染症の中では比較的発生頻度の高い疾患で、例年6～7月に流行がみられますので、これから特に注意が必要です。

予防には、手洗いを励行し、タオルの共用を避けるなど一般的な感染予防対策が重要です。

◆ 伝染性紅斑（リンゴ病）

伝染性紅斑は、昨年、県内で3年ぶりに流行がみられました。昨年の7月にピークを迎えた後も、年明けまで流行が続きました。今年2月以降、患者報告数は減少しましたが、5月半ばから再び増加しています。

県内では前回、2011年～2012年の2年にまたがり流行がみられましたので、昨年に引き続き、今年もこれから夏にかけて動向に注意が必要です。



◆ 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

全国的に昨年から患者が増加しています。県内では、今年に入り徐々に患者報告数が増加しており、第22週に大きく増加しています。現在のところ、岐阜保健所管内での増加が目立っています。

流行性耳下腺炎は、ワクチンによる予防が可能です。任意接種となりますが、1歳から接種することができますので、保護者の方はかかりつけ医と相談の上、お子さんの接種を検討しましょう。



★感染症法における取扱い

咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・伝染性紅斑・流行性耳下腺炎は、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（岐阜県53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-kijun.html>

（保健医療課 HP）

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/>